

# 宗谷 地研

稚内北星学園大学 宗谷地域研究所 Newsletter 01

## 「鉄道プロジェクト」が始動しました

沿線の歴史と文化と産業を地図上に可視化します

稚内北星学園大学が設立した「宗谷地域研究所」は、最初に取りかかる研究プロジェクトとして「歴史・地理空間情報の基盤整備」を設定し、その対象をまずは“鉄道”に設定することとしました。題して、『宗谷本線、天北線のヒストリー＆ストーリー”可視化プロジェクト』です。

宗谷本線および天北線の路線そのものの変遷を地図上で動的に可視化し、さらに鉄道の展開に伴う土地利用や地域産業の変化、人口動態などを

マッピングしていき、変化のきっかけとなる歴史的できごとや、写真・映像などのデータも加えていきます。

また、たとえば駅ごと、路線ごとに利用の思い出を語っていただくインタビューや座談会の機会を設け、そこで得られた鉄道をめぐる“ストーリー”などをリンクさせることによって、鉄道を軸とした重層的な地域像を構成したいと考えています。



### ■ 今なぜ鉄道か

上の地図は、1986年ころの国鉄の列車時刻表に掲載されていたものです。右上部を走る天北線は1989年に廃止され、線路や駅舎などその名残は今ではほとんど見ることはできません。また宗谷本線は「単独では維持困難な路線」の一つとして挙げられ、存続問題が議論されています。そんな中、今改めて「鉄道と地域」のかかわりを見直

すことには、大きな意味があると考えます。

この研究プロジェクトでは、鉄道とともに発展または衰微してきた地域の歴史を、さまざまなデータをデジタル化して集約し、“見て分かる”かたちにして示します。過去から積み重ねられてきた人々の営みを改めて認識することは、この地域に住まう私たちが自らのアイデンティティを再獲得することに資するに違いありません。

## ■ 対象となる地域は

宗谷地域研究所は、いま取り組む課題の大枠を、「N45°エリアを情報メディアで元気にするー地域の歴史と文化と産業を可視化して地域ブランディング」と設定しています。漠然としていますが、「北緯45度あたり」が対象となっているということです。

そうした地理的な想定があり、また旧天北線の南端が音威子府だったことに合わせ、宗谷本線に関しても音威子府以北、および支線としてつくられた簡易鉄道や森林鉄道を対象とします。(しかし今後の連携関係などにより、宗谷本線のさらに

南や、旧羽幌線、旧興浜北線などに対象を拡大していくこともあり得ます。)

すると、旧天北線については<稚内市、猿払村、浜頓別町、中頓別町、音威子府村>、宗谷本線については<稚内市、豊富町、幌延町、中川町、音威子府村>がそれぞれ直接に関係する自治体となります。

当研究所は、それらすべての自治体の首長または関係部署と協議を実施し、情報の提供や有識者の紹介そして成果の活用等に関する同意を得ました。というより、たいていは、面白がっていただいたと感じています。

## ■ どんなデータを利用するのか

まずは、鉄道と駅、そして主要施設に関するデータで、これは可能な限り正確な(北緯〇度〇分〇病、東経〇度〇分〇病)位置データと設置年代を入手します。山岳や河川などの地形データと重ねることも必要でしょう。市街地などについては、当時の地図や航空写真などがあれば最高です。

そのうえで、重ねていく歴史的できごと、産業、人口、生活文化などに関する情報を得るために各市町村史、新聞記事、雑誌記事などを参照し、写真および映画・ビデオなどの映像の記録も収集し、デジタル化して蓄積します。

また客観的事実とは言えないもの、例えば文学作品も参考になりますし、人々の“記憶”も生きられた現実として貴重なものです。



## ■ 何を地図に載せるのか

北海道開拓の時代に設置が進められ、旅人に馬を貸し出したり宿泊させたりした「駅遞」を地図上にプロットすることから始めます。これを中継点にして人や荷物の移動が活発になりはじめ、その移動に沿って鉄道そして駅舎が造られていきます。鉄道は年代を追って伸びていき、ある時、一部は消え去ります。駅が移動することも。鉄道の駅ができるとともにその周辺に旅館、商店、役所、学校、病院、寺などが建てられ、産業拠点や

市街地が形成されていくでしょう。その変遷を、地図上で時代を追って再現します。

時刻表や所要時間、走っていた列車の種類なども直感的に理解できるように表示しますし、人口動態や産業動態、土地利用についても見て分かるよう工夫します。人口そのものだけでなく、地区別の出身地の傾向なども興味深いところです。当時の地図が残っていれば、ズームアップして街の様子を確かめられるようにもできるでしょう。時代ごと、地点ごとの写真も展開でき、災害や事件、

施設のエピソードなどのテキストデータにもリンクします。

インタビューなどで記録した駅にまつわる利用者の思い出も“ストーリー”として紹介しますし、文学作品に登場していれば、やはりその地にまつ

## ■ さらに面白そうなこと

例えば、天北線の全線を、先頭車両の前方に向け固定したビデオカメラで記録した動画が残っています。その映像と並べて、旧天北線の跡を忠実に辿ったドローン映像を見られるようにすると面白いかも知れません。ドローンの活用は、日曹鉄道などその他の廃線についても可能です。

天北線についてはさらに、埋もれている写真データを集積し、デジタル化して保存することが大切な作業になると思われます。その量は膨大なものになるかもしれませんが、そこから代表的な作

## ■ そしてさらに次の段階は

このプロジェクトの先に展望されるのは、鉄道に加えて道路、航路にも対象を広げ、交通網全体との関連で地域がどう展開してきたのかを可視化するという課題です。鉄道や道路よりもはるかに長い歴史をもつ航路に目を向けることになれば、北前船あるいはさらに遡ってオホーツク文化やアイヌ文化における交易ルートから現在を見つめ直すことにもなりますし、地域的にも、利尻島および礼文島を対象に加えることとなります。

さらに天塩川などの河川を利用した交通にも目を向ければ、より実態に即した生活の様子を可視化することができるかもしれません。

## ■ 宗谷地域研究所とは

稚内北星学園大学はいま、「情報メディアで社会に新しい価値を生み出す」という目標を掲げ、

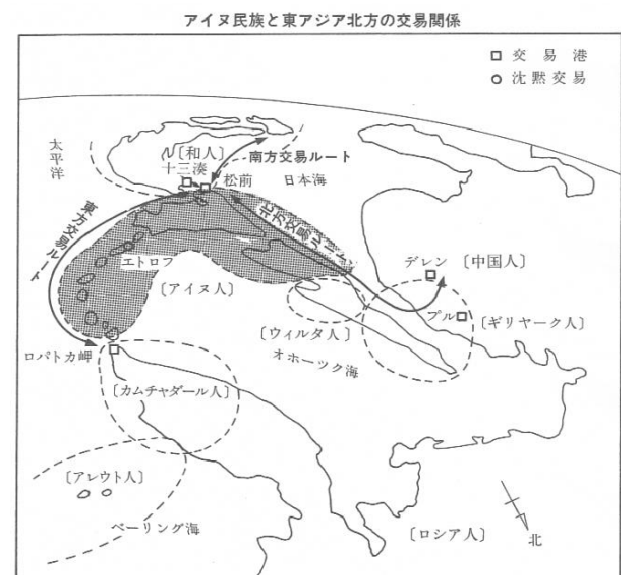
わる“ストーリー”の一端として記録することにも取り組みたいと考えています。

これらをいっぺんに作り上げるというのではなく、順次レイヤーを追加していきながら豊富化していく計画です。

品をメモリアル写真集として編集し、閲覧に供するとさらに文化的な価値は高まるでしょう。

またこのプロジェクトの成果はインターネット上でオープンにし、できる限り操作しやすい利用環境を提供します。地域の学校教育、社会教育その他の場面で活用されることを期待していますが、そうした中からさらに新しいアイデアが生まれ、バージョンアップにつながることを思います。

地域で作り上げていく、増殖するデータベースです。



(上村英明『北の海の交易者たち』より)

この地における、情報や議論、人や機関・団体の中核としての役割を果たしたいと考えています。

宗谷地域研究所は、その目標のために、「稚内・

宗谷及び隣接する地域の振興に資するよう、この地域の自然、歴史、文化、産業の資源を集团的に研究、創出すること」を目的としています。

大学が研究を“請け負う”のではなく、研究プロジェクトごとに大学内外の研究者や有識者（学内フェロー、地域フェロー）を呼び集め、集团的な

ネットワークで研究に取り組む結節点の役割を、稚内北星学園大学が果たそうとするものです。

また行政・経済界などのステークホルダーにも「顧問」として参加していただいて、研究プロジェクトの設定と評価を行うという設計になっています。

## ■ 現在のプロジェクトメンバー

研究ネットワークの構築そのものも、研究所の重要な課題です。テーマによって人の入れ替わりがあったとしても、総体としては、お互いに情報共有し、議論し、協働する関係をこの地域に徐々に広げ、深めていきたいと願っています。

現在、学内フェローの9名に加えて、以下の方々に地域フェローとしてプロジェクトに参画いただいています。今後さらに、地域的にも分野的

にも多彩な方々にプロジェクトに加わっていただきたいと願っています。

稚内歴史・まち研究会 会員（2名）

稚内市 学芸員

稚内市立図書館 司書

稚内開発建設部 職員

稚内市内小学校 教員

写真家（さいたま市在住）

ほか

稚内北星学園大学 宗谷地域研究所

TEL : 0162-32-7511 (大学代表)

所長 : 斎藤 / リサーチアシスタント : 石橋

mail : soya-lab@wakhok.ac.jp